別紙参考様式２

令和８年度研究推進計画

学 校 名　　東広島市立三永小学校
学校長名　　若　狭　　弘　子

１　研究主題、研究内容・方法等について

（１）研究主題

主体的に学び続ける児童を育成する算数科授業の創造
～数学的な見方・考え方を深める、目的を意識した対話の工夫を通して～

（２）主題設定の理由

本校では、学校教育目標「お互いを大切にし、主体的に学び続ける児童の育成」の実現を図るため、昨年度、「主体的に学び続ける児童を育成する算数科授業の創造～他者との関わり合いと振り返りに焦点を当てて～」を研究主題とし、研修を進めてきた。「他者との関わり合い」と「振り返り」をキーワードとし、単元の中で働かせたい「数学的な見方・考え方」を明確化する教材研究や、掲示物・板書の工夫による「振り返り」の質の向上、対話形態の多様化による「関わり合い」の指導手立ての拡充に取り組んできた。昨年度は、これらの「意図的な場の設定」を試みたことで、授業の展開における指導のバリエーションを広げることができた。

本校のこれまでの取組から、児童が主体的に学び続けるには、話し合ったり振り返ったりする場を設けるだけでなく、学びの基盤となる「安心感のある学級経営」が不可欠であることが明らかとなってきた。また、設定した対話や振り返りの場が単なる「活動」に留まってしまうという課題も見られ、算数科の本質である「数学的な見方・考え方」を深める対話には至っていない。さらに、中学年以降における算数への苦手意識の解消に向けた手立てや、機微な見取りを通した「つまずきの早期発見」を、授業内で意図的に具現化できなかったことも、改善すべき大きな課題である。

そのため、今年度は、「目的を意識した対話」をキーワードに研修を進めていく。本校では、対話の目的を「解釈」「相談」「確認」の３つに整理し、教師が「対話によって、どのような見方・考え方を引き出すのか」という目的を明確にする。このように、対話を意図的に構成することができれば、納得感のある深い学びへと繋がると考える。ま

た、対話を通じて児童同士が互いの考えの良さを価値付け合う経験を積むことは、算数科への自信を育むとともに、互いを認め合う安心感のある学級経営の充実にも資するものと捉えている。

以上のことから、本年度の研究主題を「主体的に学び続ける児童を育成する算数科授業の創造 ～数学的な見方・考え方を深める、目的を意識した対話の工夫を通して～」と設定した。

（３）研究仮説

算数科の授業において、働かせたい「数学的な見方・考え方」を明確にし、「対話の目的」を意識して関わり合う授業をつくるならば、納得感のある深い学びが実現し、主体的に学習に取り組む態度を育むことができるであろう。

（４）研究内容

研究主題の実現に向け、以下の 3 つの視点から研究を推進する。

① 学校全体で取り組む「共通の仕掛け」

- **数学的な見方・考え方の可視化**：「算数キラキラカード」を活用し、数学的な見方・考え方の価値付けを行う。
- **振り返りの視点の可視化**：何を振り返るのかを明確にし、記述の質を向上させる。
- **基礎学力の定着**：朝の帯タイム（ぐんぐんタイム）において習熟を図り、確かな計算力や基礎知識を養う。

② 学年の実態に応じた「教材研究と授業実践」

- **数学的な見方・考え方の明確化**：指導要領や教科書比較を通した教材研究を行い、本時で働かせたい「数学的な見方・考え方」を明確にした指導案を作成する。
- **対話の意図的な構成**：対話の目的を「解釈」「相談」「確認」の 3 点から精査し、指導案の中に「引き出したい対話（児童の具体的な姿)」を明示する。
- **教職員の授業交流**：暮会等の時間を活用し、他学年の授業の様子や子どもの変容を日常的に共有し合う。

③ 研修を通した「教職員の主体的な学び」

- **授業改善の日常化**：研究授業での成果と課題を日常の授業に還元し、PDCA サイクルによる継続的な授業改善を行う。
- **「児童を主語」にする協議会**：教師の指導技術の検討に留まらず、児童の具体的な発言や思考のプロセスに焦点を当てた研究協議を推進する。

（５） 検証の方法及び指標

A) 単元末テストによる定着度の分析

・各単元末テストの得点を集計し、基礎・基本の定着度を検証する。

【指標：平均点 70 点以上の児童の割合 80%以上】

B) 児童の意識調査の分析（アンケート）

・6 月と 12 月に実施するアンケート結果を比較し、算数への意欲や対話の有用感の変化を分析する。

【指標：主題に関連する項目の肯定的評価の割合 80%以上】

２　検証計画

（１）単元末テストの実施と定着度の分析 （２）児童の意識調査の実施と分析（６月、12 月）

３　校内研修計画

４月	・前年度の研究の成果と課題分析 ・研修組織づくり ・研究の年間計画案づくり
５月	・研究方法の確認 ・研究の理論構築
６月 ７月 ８月	・授業実践 ・意識調査の実施及び分析 ・教材分析、指導案作成、指導案検討
９月 10 月 11 月 12 月	・授業実践 ・学力調査の実施及び分析 ・意識調査の実施及び分析 ・研究の成果と課題の分析
１月 ２月 ３月	・研究紀要の作成 ・研究の課題整理 ・次年度の方向性の確認

４　研究公開の予定について

なし